

五町以上	二二六〇
三町以上	五二三八
一町以上	二五九四九
五反以上	三二八二二
五反以下	六六四五二
計	一三三六五二

福住地方における農民の生活は富嶺地兒島大分等に比して従来比較的余裕があるかの如く言われてきたそれは

- 一、根本的には廣大な農耕新地（筑後平野の如き）を有すること
- 一、好景氣時に農村子弟や小作農民の多くは土地を離れて北九州の大工場、筑豊の礦山大卒園に於ける三井の礦山工場に働らきに出かけたため農村定住者の平均耕作反別の増加となつたこと（筑豊地方では田を作る者がなくて荒れてゐた事がある）

- 一、農村子弟子女の多くは工場に通勤し働らき労働賃金はイタラ

か家計の補助をなしてゐたこと

に原因してゐたものであり、だが農産物の崩落は年々農民の収入が激り農に工場輸出の首切り賃銀値下げ工場附銀は多くの働き手を送つてゐた農村に失業のために増える者が増え小作農民の生活は急激に悪くなつてゐる。肥料代、借金の利縛時に秋の収穫をすすめ米を賣らねばならないし、十一月から三月までの間に大部分を賣りつくし八月頃に入はすでに喰ふ米さへないと云ふ有様である。

養蚕業の崩壊、麻草紙スヤ等の副業の収入も激減し、副業の働き手である青年は一ヶ月に一回か二月に一回の頻りに見ることが出来ず働いても稼いだらぬやうになつてしまつた。

特に昨年は金銀下を越じ凶作による二三割の減収と一般的には

（戦争による税金の加重）肥料代の値上りて農家大衆の生活を窮